



◆其の九十二

祈りの山 宝満山

宝満山は、緑深い森の静けさと、巨岩の荒々しさが混在する、景色の変化に富んだ山です。山頂からの眺望は雄大かつ美しいもので、登頂した人も多いと思いますが、この山が「祈り」にまつわる古い歴史を持つことはご存知でしょうか。

古代「大宰府」の時代には、国家鎮護と共に、この地から出帆する遣唐使船の安全を祈る祭祀(さいし)が行われていました。天に近く、玄界灘を臨む山頂は、最高のロケーションだったのでしょう。

中世以降は、巨岩や泉などに神仏を見出し、厳しい自然環境を修業の場とする修験道が盛んになります。

山伏は険しい山中での修行によって霊的な力を身につけると、と考えていた当時の人々は、修行の場である宝満山を神聖な山として信仰していました。

明治維新後、廃仏毀釈の影響で一度途絶えた宝満山の修験道は、戦後になって復興されました。現在も「入峰(にゅうぶ)」などの修行が、宝満山を舞台に行われています。力強い読経やほらの音は、宝満山が「祈り」の山であることを私たちに教えてくれます。

日本の山岳信仰を知る上で重要な宝満山は、今年国史跡指定10年の節目を迎えます。歴史博物館ではこれを記念して、9月24日(日)まで「宝満山ー宝満山入峯絵巻の世界」展を開催しています。

宝満山伏独特の装束を間近に見ることが出来る貴重な機会となりますので、ぜひご来館ください。



関文化財課

